



ることになったといわれます。当館内では2箇所に岸和田煉瓦について常設展示しております。岸和田市の海岸には、昭和30年頃まで巨大なホフマン窯が林立しておりましたが、30年代初めにはすべて解体され、土地造成のうえ新しい市街地となりました。

当館は、おそらく最後に残った窯の写真を同市から入手し展示しています。岸和田市のご一行はこの展示をご覧になって、軽いショックを受けておられたようでした。皆さんは口々に「なぜ全部壊してしまったのか」「保存していたら重要文化財だったのに」と仰嘆されていました。遠く離れた舞鶴で、岸和田でかつて栄えた産業施設の展示をしているのは、通常お嬉しいものですが、その写真は実は「遺影」であり、カチカチのない郷土の誇りを体現した近代化遺産は、すでにひとつ残らず解体されている現実を改めて突きつけられたという衝撃ではないか、と勝手ながら想像した次第です。

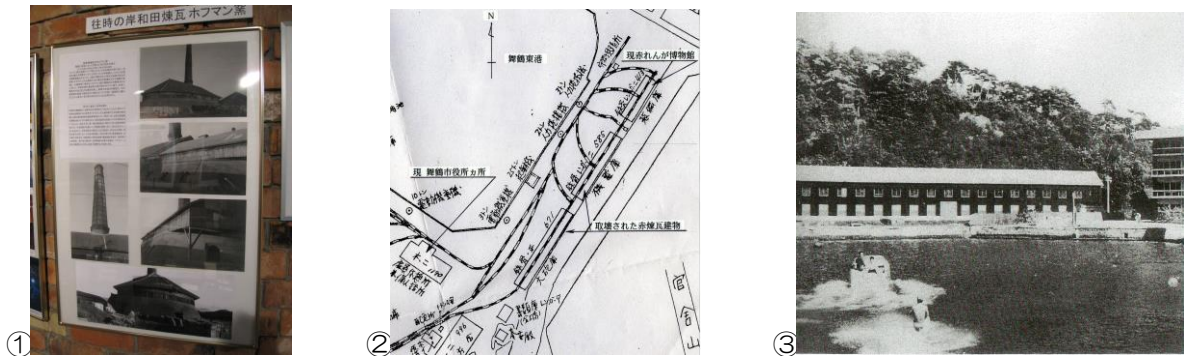
昭和30年頃からは、高度経済成長の熱気の中で、とにかく古いものを打ち壊し、新しいものを造るのが当たり前というのが常識であり、これに異を唱える者、解体反対運動をする者は、「あほか」の一言を浴びせられたことでしょう。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」で静観的に描かれた昭和30年代は、その時代に小学生であった私のような者には、結構臭くて汚くて騒々しいという世界でもありました。蒸気機関車と同じく大量の石炭の煤煙を出すホフマン窯は地元住民にとっては、洗濯物も干せない迷惑な存在だったかもしれません。また「戦前の暗い時代」を想起される建物や工場は、一刻も早く新しい施設の置き換わるべしとの共通意識が国中を覆っていたような感じがします。

では、舞鶴市の場合、岸和田の窯解体を<sup>わらえる</sup>逃げるのかということでもありません。たとえば、赤れんが博物館の前身である旧海軍魚形氷雷車は、解体寸前の運命を辛うじて免れ、現存に至ったわけです。ちょうど解体マシンの数センチ前で止まった感じです。当魚形氷雷車と同時に建設された大砲車と機雷車の2棟は、なんと昭和47年まで存在しておりながら解体されました。当魚形氷雷車が生き残り保存・活用された背景には、赤煉瓦倶楽部などの活動に代表される下からの盛り上がりがありました。また、先ごろは、神崎のホフマン窯もなんとか解体を免れ、保存修理工事が成ったところです。

元来、工場や倉庫という産業施設は、物流機能や産業構造の変化などに応じて、逐次変化するのが当然でしょう。これらを近代化遺産として保存するには、意識の高くなった現代においてすら企業経営の合理性に逆らうような特別な理屈が要求されるのではないのでしょうか。

また、保存が成ったとしても、赤れんが博物館のように、多少でも地或振興に貢献できる施設として運営されるのが望ましいと考えます。

※ 岸和田煉瓦のホフマン窯については、赤れんが博物館1Fで展示中です。ぜひご覧ください。



① 赤れんが博物館展示パネル (2013.3.23 馬場英男撮影)

② 舞鶴海軍軍需部(本部)地区建物配置図 (S20年8月現在) (H3年12月、舞鶴市文化財保護委員 渡邊祐次作図より) [上が北、右上の装備車が現赤れんが博物館]

③ 体育館建設で取壊された大砲車(M36 建築) (平成8年刊「写真でたどるふるさとの歩み」より、「昭和40年代初めころ、市役所裏の水の上スキー」と解説)

### 3. 第3回近代化産業遺産視察旅行 報告

理事長 馬場 英男 (会員 No.8)

本年7月27日(土)、第3回近代化産業遺産視察旅行を開催、24名の参加で猛暑の中にも関わらず有意義な視察を終えた。今回の視察地は、滋賀県近江八幡市と豊郷町の二か所。その一つが、現在日本に残るホフマン窯4か所の内の一つ、社会福祉法人一善会介護老人福祉施設「赤煉瓦の郷」横に保存されている「旧中川煉瓦製造所ホフマン窯」である。中川宗孟理事長兼施設長と奥さんのお二人が親切に案内していただいた。建設は1912(M45)年頃とされ、1967(S42)年まで稼働していた。平成15年に(財)日本ナショナルトラストの観光資源発掘調査が実施された。文化的価値として、「・・・中川煉瓦は八幡瓦製造という在来技術の上に先端技術であるホフマン窯を接ぎ木した、いわばハイブリッド技術であり、技術史上の観点からも重要。八幡堀に沿った景観の構成要素としての意義も大きく、・・・保全活用の方途が開かれることが望まれる。・・・」と記されている。規模は、南北55.6m、東西13.7m~14.4mの長方形に近い平面、窯高3.2m、煙突高28mで、窯内部は、幅3.57m~3.72m、アーチの頂部までの高1.8m~2.35mで、15の煉瓦焼成室を有していたと想定されている。稼働時には瓦屋根で覆われ、ホフマン窯の廻りにはトロッコ用のレールが敷設されていた。



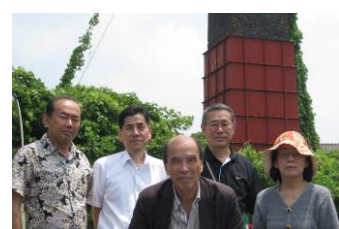
草生す窯



窯内へ



窯内見学(ライト準備していただいた)



前列左・中川理事長と、右・奥さん

近江川畔では、昼食後、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(和名<sup>ひとつやなぎめしる</sup>— 柳米来留)の設計による数多くの建築群の見学を行ったが、ここでは省く。

次の視察地は、犬上郡豊郷町の旧豊郷小学校。近江川畔から約30分。依頼した観光ボランティアの案内で校舎内を巡る。今回の視察に入れたのは、予定している旧丸山小学校の保存の取り組みの参考とするためである。14年前の平成11年に、ヴォーリズ設計の校舎の解体計画に反対運動が起き全国に報道されたのでご存じの方も多いと思う。保存運動の結果、解体工事差し止め仮処分申請が認められ、校舎は保存され空き地に新校舎が建設された。平成21年に町立図書館、シルバー人材センター、子育て支援センターなどが入居する複合施設として再出発している。平成24年には国の登録有形文化財に答申された。見学して、余りにも素晴らしい建物で解体が計画されたのが信じられない思いで、階段手すりのウサギとカメの置物は、教育の一環として設置されたことの奥深さを感じる視察であった。効率の悪さを建物の歴史的、文化的価値が凌ぐ好例として、町民が誇る資産として末永く活用するのを見守りたい。



ヴォーリズ設計「旧豊郷尋常高等小学校」校舎

幅2.7mと広い廊下(1階の長さ百m)

イソップ童話からウサギとカメの置物

卒業生の当時丸紅専務の古川鉄治氏の寄贈により1937(S12)竣工

(油断して感嘆しているウサギ「コツコツがんばれ!」と

#### 4. 「種は船」プロジェクトの今

理事 森 真理子 (会員No.123)

昨年舞鶴から新潟までの航海を終えた TANEFUNe (「種は船」プロジェクト) は、今夏、東京都や宮城県塩竈市の協力を得て、塩竈市の浦戸諸島に約二ヶ月滞在しました。日本三景で知られる松島がある松島湾に浦戸諸島はあります。桂島(かつらしま)、野々島の(ののしま)、寒風沢島(さぶさわじま)、朴島(ほうじま)の有人島4島を、TANEFUNe が連日交代で島々をめぐり、地元の方達と一緒に、絵を描くワークショップや、舞鶴でも行った漁網を編むワークショップ(「そらあみ」=TANEFUNe の上部の網の部分を取り替えます)、地域のお話を伺うカフェを行いました。舞鶴発の船が、こうして継続して日本各地で活躍できる場があることを嬉しく思います。今後いろいろな場所で人や地域と出会いながら、航海を続けていけたらと思います。舞鶴に戻る頃にはたくさんの物語や記憶を積んだ船になっていることでしょう。



島に停泊するTANEFUNe



桂島でのカフェとワークショップ



朴島でのカフェとワークショップ



そらあみのワークショップ



松島湾の牡蠣養殖筏を利用しそらあみ展示

平成25年度の法人通常総会で承認された事業の内、「廃校・旧丸山小学校」の保存活用の取り組みについて現状報告する。旧丸山小学校は、舞鶴市大浦半島の日本海に面する農漁村集落の三浜・小橋地区に残る舞鶴市内唯一の木造校舎で、1891(M24)年に三浜の海蔵寺から現在の地に移り、1942(S17)年に平屋校舎、1950(S25)年に二階建て校舎・講堂・給食室・教員宿舎が建築された。その後、児童の減少による学校統合により1998(H10)年3月に閉校を迎え122年の歴史に幕をおろした。以後、舞鶴市が体育館の改修、校舎の屋根葺き替えを行い、両区に無償で管理委託し現在に至る。

まず、三浜・小橋区長に当法人の取り組みについて説明し理解を得た後、本年7月7日に校舎北側裏手に繁茂していた竹・樹木の伐採を会員3名で実施した。次に7月24日には欠損していた窓枠二枚と割れたガラス二枚の欠損部をベニヤ板で仮修理した。今後については、雨漏り箇所、廊下等の破損箇所等の修理と清掃作業を行う事を考えている。今後、両区と協議を進め、保存活用に向けた広範囲な組織を設立、ボランティアを原則とし、材料費や修理費ねん出のため、「(仮称)丸山小学校再生プロジェクト」募金を広く募る事としている。



校門からの外観



校舎一階廊下



教室



階段(雨漏り)



7/7 竹・樹木伐採作業完了状況

7/24 窓ガラスおよび窓枠欠損箇所 ベニヤ板で仮修理

## 6. その他

## 事務局

- 1 会員資格と会費納入について 平成25年度会費納入ありがとうございました。記念の会員ピンバッジお送りしました。未納者(特別会員を除く)については、会報をお送りするのが今回限りとなりますので改めて会費納入をお願いします。なお、ご都合で退会希望者はメール、電話等でお知らせください。
- 2 2013 ネットワーク関門大会について 同封しました総会案内チラシを見ていただき、参加希望者は事務局に10月15日までにご連絡ください。
- 3 編集後記 2020年東京オリンピックが9月8日早朝に決定した。49年前の1964(S39)年開催の東京オリンピック、小生は当時大学一年でデパートのカラーテレビで見た入場式が今でも脳裏に焼き付いている。当時買い求めたポスターは長距離選手が位置ついた躍動的なデザインで、日本がようやく戦後の困難な時期から抜け出し高度経済成長の緒についた象徴的なものであった。また、スクラップ&ビルズの掛け声一色の中で、各地で町並みを保存する市民運動が動き出した時期でもあった。翻って、舞鶴の赤煉瓦建物の保存活用は、各地の先人の先駆的な礎の上になし得た必然的な出来事であった。

さて、今年度から始まった廃校「旧丸山小学校」の保存に向けた取り組みは、多くの方に必然として理解されるかどうかは、今後の関係者の活動いかににかかっている。(H. B)

法人目的(要旨): 赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワークによる他市のまちづくり支援、社会全体の利益増進に寄与。

会員の資格: 会費納入者(特別会員除く)。入会金1,000円、年会費(個人2,000円、法人10,000円)。**常時会員募集中**

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先: ゆうちょ銀行 口座番号 (01010-6-21476) 加入者名 (赤煉瓦倶楽部・舞鶴)

